

その他の取り組みによる実践


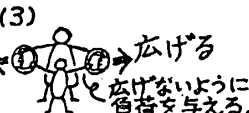
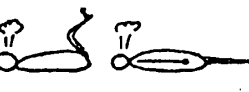

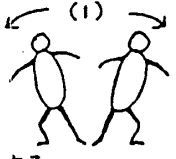


[7] 抽出養護・訓練による実践

中学部には、抽出養訓として、運動機能訓練士（以後、田尻先生とする）から指導を受けている生徒が3人いる。そのうちR男は、抽出養訓によるアプローチにより、乏しかった運動経験が豊かになり、運動機能回復が可能な段階にまできた。R男への指導経過を述べることで中学部の抽出養訓の実践例とする。

(1) 本児の実態

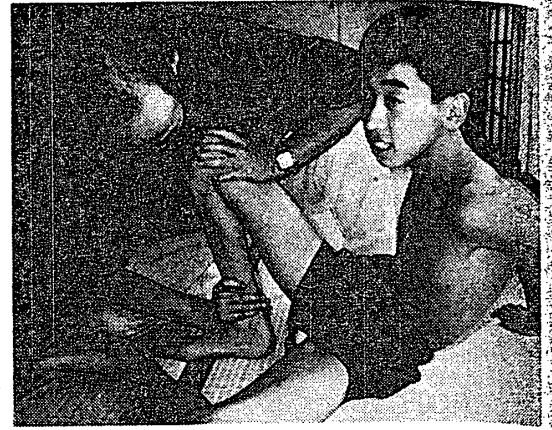
本児は脳性麻痺後遺症による片麻痺のために、右足のアキレス腱の伸びが身体全体の成長に追いつかず、右足の踵が浮いた状態で、ひどい尖足歩行をしていた。昭和63年に、アキレス腱の延長手術をして、一旦、踵がつくようになったが、予後のケアが適切でなかったのと、本児が極端に右足に体重をかけなかったために、現在も右足の踵は浮いた状態である。また、日常の運動経験の乏しさから、筋肉の融通性がなく、身体全体の筋肉が硬くなっている。特に右足の筋緊張が激しい。そして、筋力が全般的に未発達である。

(2) 指導の実際 (本児への指導は平成元年度から継続されているが、本年度分を抽出する。)

指導の意図	指導内容	図解
1. 上肢の筋力をつける。	(1). 腹這いになって、肘をつかずに手の力で前進する。 (2). 平均台に手をつけて馬跳びのようにして前に進む。 (3). リングを使って、腕を広げる、縮める。(二人一組) (4). 棒を使って、引張り合ったり、押し合ったりする。(二人一組)	(2)  (3)  ①を上げる ②を下げないように 負荷を与える。
2 呼吸法の改善を図る。	(1). 深呼吸をさせ、補助として腹部を押さえ、息を吐き出させる。 (2). ゆっくり、長く声を出させる。	(1) (2) 
3. 右足首の柔軟性を回復させる。 (筋緊張を緩める。)	(1). 右足首を回しながら、もみほぐす。 (2). 以上を気長に繰り返した後、踵をつけた状態で、直立させる。その後、ゆっくり踵をつけて歩かせる。	(1) (2)  ①をもみほぐす。 ②を伸ばす。 ①②を伸ばしたり縮めたり
4. 腰の力をつけ、下肢の筋力をつけると同時に、右足への体重移動をスムーズにする。	(1). 立位で左右に体重を移動し、バランスをとる。 (2). 右足の踵をしっかりとつかせ、腰を軽く支える。 (3). 片足にしっかりと体重をかけながら、片足立ちで100数える。 (4). ブランコ等の遊具を使って、体重移動の練習をする。	(1)  
5. 装具をつけ、右足の踵にふくらみをつくる。	学校において着用する。本児が嫌がらなければ、常時、着用させる。	

(3) 指導状況

田尻先生による抽出養訓は5月から7月までに13回、9月に5回行われた。右足首の柔軟性を回復させる指導は毎回行われた。ブランコに立ち乗りしたり、すべり台を歩いて下りるのは、本児にとって初めての経験であったが、怖がりながらも意欲的に取り組むことができた。また、6月からは、それまで嫌がってしていなかった家庭での取り組み（父親に足をマッサージしてもらおう）もするようになった。現在では腰が安定してきたことで、踏んばる力もついてきており、指導前よりも踵の形が良くなりつつある。



(4) 考察と今後の課題

抽出養訓によるアプローチは、本児に運動全般への自信をつけさせた。そして、いろいろな運動に積極的に取り組めるようになった。また、学校での取り組みはもとより、家庭での取り組みも実現できたことで、本児へのアプローチはより一層高められたと考える。このように養訓指導は、特設時間内だけでなく、本児の日常において繰り返し行われることが大切であり、養訓担当者、担任、家族の共通理解のもとに行われるべきである。

なお、装具を身につけさせているのは、障害の実態を本児に自覚させる意図もあり、将来的には、自分一人で運動機能訓練ができるように指導、援助していきたい。

[8] 健康管理による実践

健康管理のための特別の授業を組み立てたり、調査、研究するのではなく、初年度の取り組みや実態を参考にしながら、日常生活の中でいねいに実践していく。

本年度の重点

生活リズム、食生活は、個人差や家庭生活とのからみもあり、個に応じて家庭と連携をとりながら進めていった。学校生活で全員共通して今年度力点をおいたのは、次の3点である。

- ① 清潔……ハンカチの携帯と使用の励行、洗面、歯みがきの励行、汗の拭きとりと着替えの励行などを具体的な場で指導したり、かなりきびしく声かけをしていった。特に着替えについては、洗濯指導ともからめて、運動会シーズンは毎日、平常は、水・土曜日の持ち帰りを徹底した。
- ② 生活リズムの確立と健康しらべ…… 朝の会 — 運動 — 中心学習 の流れをパターン化した。特に朝の会では、健康しらべを綿密にする中に健康状態の訴え方、問われて症状を答える答え方、生理の申告など教師とのやり取りの中で育て、関心を持たせようとした。
- ③ 肥満、やせすぎ……毎月の身体測定をチェックし、家庭指導、給食での加減、運動量、生活の見直し等について検討し、手だてを適宜とっていくことを教師間で共通理解した。

この3点について、各クラス、各個人の実態に合わせてその都度指導してきた。その結果、今年度は、特に清潔に関する意識が少しずつ子どもにも家庭にも定着し、リズム化してきている。